



## SDGsアクション in しが

## 《長島宏祐 - 田の浦ファンクラブ学生サポートチーム》

おちゃっこで深まる絆は  
愛するまちのよりどころ

「このワカメ美味しくてもっと滋賀の人にも食べてもらいたいです。」と特産品PRにも意欲的だ。

## 世代をこえたつながりが明日への活力！

「月に1回宮城県南三陸町に行っているんです。」と語るのは「田の浦ファンクラブ学生サポートチーム」代表で、滋賀県立大学人間文化学部2回生の長島宏祐さん。現在メンバー18名からなるこの団体は、東日本大震災で被災された人々に寄り添う復興・自立支援活動をまちづくりの視点でおこなっている。高齢者サロン「おちゃっこ会」を定期的で開催し、被災地の失われたコミュニティを復活させよう！と取り組んできた。活動拠点「田の浦交流センター」でのふれあいは、高齢者、学生双方にとってのよりどころになっている。遠く離れた土地での一途な行動は多くの共感を得ながら、被災地の方々の心を癒してきた。

最近では地元の婦人団体「ひま輪りの会」メンバーとの連携も加わり、さらにおちゃっこ会が活気付いてきた。また、田の浦は漁業が盛んな集落。若い漁師らとの交流も増え「10年後に向けて災害にも経済にも強い町づくりを彼らと一緒に考えていきたい！」と意気込む。

震災で大きな悲しみを抱えるこの集落で、世代をこえたこの「つながり」が、少しずつこの世界を変えている。活動を継続させるためにも、安定した活動資金の調達課題になっている。



月に1回程度、開催されるおちゃっこ会の様子。学生とおばあちゃんがおしゃべりをして楽しい時間を過ごしている。

